



外来種の除去作業中

念して、「とやまの山岳環境整備ボランティア」を、八月七日ブナ坂国有林立山弥陀ヶ原において開催しました。

本事業は富山県自然保護課が主体となり、立山をベースに活動する、環境省・林野庁・(独)国立登山研修所など国等の機関や、富山県警山岳警備隊、富山県ナチュラリスト協会、名古屋林業土木協会富山支部等が共同し実施したものです。

当日は、十歳から七十歳まで約一〇〇名の県民ボランティアと、国・県・各種団体等のスタッフを合わせ、約一六〇名が参加しました。開会式では、山本生活環境文化部長から「事業の目的」、中島署長から「木道整備の意義や安全作業」について話がありました。午前中は、弥陀ヶ原に設置した木道が降雨や濃霧等に



こんなに沢山の方に参加していただきました

よって滑りやすくなることにより、怪我をする利用者が増えたことに対応するため、砂などを混ぜた特殊な滑り止め板を設置する作業を実施しました。

午後は、オオバコやシロツメクサなど本来この地域には自生しない外来種除去作業や、県ナチュラリストによる自然観察会など、十二班に分かれて活動しました。

当署からは、中島署長ほか十名の職員と国有林野保護管理協議会が雇用している「高山植物保護監視員(通称グリーン

パトロール)」八名が参加し、各班の責任者・指導者等として、県民ボランティアの方々とともに、利用者の安全確保のため、山岳環境整備に汗を流しました。

事業実行中は、歩道を散策する方々から「滑りやすいので滑り止め板の設置は助かります。」「暑い中お疲れ様です。」「など激励の声を沢山いただき、今回実施した木道整備の大切さを再認識するとともに、今後も県民ボランティア・国・県・関係団体等が協働し、木道整備や外来種除去等に取り組んでいく必要があると感じました。

公共施設の確認に関する 自治体との協定を締結

【東濃署】平成二十八年八月十日に中津川市、恵那市と公共施設の確認に関する協定を締結しました。

最初に高塚署長から「私たちは国有林の保全管理のため日々山間奥地へ足を運んでおり、日頃、市の職員の目が届かない公共施設に異常があった場合に連絡す



中津川市長と高塚東濃署長(右)



恵那市長と高塚東濃署長(右)

る協定を締結することで、より一層の地域貢献ができればと考えている」との趣旨説明を行いました。

中津川市長からは「中津川市は山に囲まれており、山を活用する施設もあるが、職員が常時点検することが困難なところもある。森林管理署職員が気づいたところをお知らせいただくことは安心する」との挨拶がありました。

恵那市長からは「最近、施設の管理責任を問われる事案が発生しており公共施設の点検について職員に指示している。そうした中で森林管理署からも情報をいただけることはありがたい」との挨拶がありました。

市長の挨拶の後、協定書に署名し協定が締結されました。

今後は、リスト化した公共施設を毎年度当初に見直しをかけ、有益な協定となるように両市と連携を図ることとしています。なお、瑞浪市についても、国有林があり、準備が整い次第協定を締結することとしています。

恵那農業高校生が 林業の現場を学ぶ (伐倒体験)

〔東濃署〕岐阜県立恵那那農業高等学校環境科学科の生徒が東濃森林管理署管内の国有林で立木の伐倒体験を行いました。

これは、東濃森林管理署と岐阜県立恵那那農業高等学校、岐阜県恵那那農林事務所の三者が連携して取り組み、同校環境科の生徒、一年生から三年生を対象に三年間を通して、地域の森林や林業現場の視察・体験をすることで、林業を将来の進路の選択肢の一つとして関心を持ってもらうことを目的に、平成二十五年より実施しているものです。



間伐について現地説明の様子



初めてチェーンソーで伐倒作業

今年度、その一回目として八月二日に、「森林の管理の一つである間伐を体験し、間伐の目的を理解するとともに、器具の使用方法和安全確保についてを学ぶ」をテーマに、三年生八名が当署の製品生産事業地である明知国有林一、一一一林班でチェーンソーを使用して立木の伐倒体験を行いました。

生徒たちは、間伐の目的と必要性、間伐の方法などの説明を受け、その後、当事業地で作業を行っている恵那森林組合の職員二名からチェーンソーの使い方、伐倒の手順や方法、伐倒時の安全対策についてきめ細かな説明を受け、伐倒のデモ

ンストレーションを見学した後、二班に分かれ保護具を着用して一人ずつ伐倒作業に挑みました。

生徒たちは、恵那森林組合職員の手ほどきを受けながら、木の傾きや、伐倒方向、退避場所を確認し、受け口を作り、ツルを切りすぎないように追いつき口切りを行い慎重に作業を進めました。

チェーンソーを使用しての伐倒は初めてという生徒がほとんどで、恐る恐る戸惑いながら作業を行っていました。伐つた木が、予定していた方向に倒れた時は、周りから拍手と歓声が上がりました。

続いて、当事業地で使用している高性能林業機械プロセッサの作業状況を見学



プロセッサの説明に聞き入る生徒たち

しました。林業も機械化が進み、人力で行っているのは伐倒作業だけだとの説明を受け感心していました。

作業を終えた生徒からは「伐倒は気を使う難しい作業であったが、体験できて良かった」、「林業は、森林を守る大切な仕事であることを再認識できた」との感想が聞かれました。

今後、三者の連携による「木曾ヒノキ備林の見学会」、「地域の森林・木材産業現場見学会」と二回の勉強会を予定しています

行事・会議等の予定

- ◎ 林道事業現地検討会
10月5～6日 岐阜署管内
- ◎ 事業担当部長会議
10月5～6日 林野庁
- ◎ 発注者網紀保持委員会
10月11日 中部森林管理局
- ◎ 第二回植生管理専門部会兼
第一回保護林復元部会
10月18日 中部森林管理局
- ◎ 第2回森林管理署長等会議
10月19～20日 中部森林管理局
- ◎ 造林事業現地検討会
10月26～27日 愛知所管内
- ◎ 木曾の国有林見学会 2016秋季
10月27日 赤沢国有林

シリーズ
「森林官からの便り」

「木曾署 開田森林事務所」

森林官 原 浩美

開田森林事務所は、長野県木曾郡木曾町開田高原に所在し、「木曾馬とそばのふるさと」として名高い旧開田村の御嶽山北部の裾野から松本市、木曾郡木祖村境までの約五、三〇〇畝の国有林を管理しています。この三月までいた私の前任地が下伊那郡大鹿村で「日本で最も美しい村」連合に真っ先に加盟したのですが、ここ開田高原地区も同連合に加盟して

いて自然豊かな素朴な雰囲気にかかわらず、感じています。今年には木曾路全体が日本遺産に認定されたことで、開田高原の自然の魅力と文化が一層アピールされたものと感じています。また、開田高原に



御嶽山を望む開田高原

は町村合併の際に開発基本条例が制定され地域住民が一体となって観光地化から地元・郷土を守っていこうという意識の高いところでもあります。

高いといえば、当森林事務所があるところは標高一、二二メートルで、真夏の日中はそれなりに暑いのですが、朝晩は涼しさを感じる時もあります。現在、当森林事務所は私のほかに経験豊富な行政専門員の方が四名いて、赴任してきた当初から山のことや当事務所の歴史、また地域のことなどいろいろ教えていただきながら現場の業務に携わっていただいています。

開田森林事務所内は、木曾谷のなかでもヒノキよりカラマツの人工林が多いところですが、標高が高く、寒風害の恐れのあることや、火山灰を含んだ土壌形成がヒノキの生育に向かないことがカラマツ指向になったのではないかと考えられますが、ここでも昨今、獣害被害が見受けられるようになりました。今までは剥皮被害などほとんどなかった良質のヒノキ林が、熊被害に遭いリンロンテープによる造林木の保護対策を行ったり、ニホンジカやイノシシの目撃情報もあることから、センサーカメラを設置して生息状況を把握するとともに、地元猟友会と情報交換など連携してくりくり罠による捕獲・駆除委託を、今年度から導入して獣害被害対策に取り組んでいます。ただ、国有林の多くにササが多いため、前任地のよ

うに罠をかければニホンジカがかかるという訳にはいかず、設置箇所の選定などに苦慮しているところです。一方、開田高原の国有林のカラマツは冷涼地で育っていることもあって比較的質が良い、と言われていきます。よりよい森林作りのため、除伐・間伐など保育の手のかけ方はどうかなど周囲に教わりながら山を見る目を養いつつ林野巡視などを行っています。



センサーカメラの設置

木曾谷では二年前に甚大な御嶽山の噴火災害が発生しました。幸い、開田高原方面には大きな影響はありませんでしたが、一時風評被害にかなり悩まされたそうです。もともと、開田登山口からは歩行時間がかかることから御嶽山登山者はさほど多くはありませんでしたが、別ルートへの入山規制の影響により開田登山口からの登山者が微増しています。

地域においては、小学校が近いことから教育活動ボランティアで開田小学校応援団に登録をしたり、これまでの関わりがある関係各方面や地域おこし関係者などつながりが持っているとありますが、その中でいかにして森林・林業にふれあっていたらいいのか、地域に貢献できることは何か、と模索しているところです。

最後に余談ですが、三年前まで永年、私の生家（上松町）で飼っていた木曾馬「あきな号」が開田高原の牧場に引き取られこの春に雌の仔馬を産み、その仔馬は秋には高山市へ行くそうです。そのような経緯もあって開田高原には親しみを感ずるところですが、開田高原の冬は厳しいので、と今から脅かされて恐ろしく思っています。このような環境の中で、試行錯誤しながらも安全第一で森林官業務を遂行していきたいと考えています。



木曾馬「あきな号」

環境の中で、試行錯誤しながらも安全第一で森林官業務を遂行していきたいと考えています。



森林事務所職員一同（中央が筆者）



高杜山より北信五岳を望む



濃富士とも呼ばれています。周辺の山域に分布するチシマザサは江戸時代からザルなどの竹細工の材料として

○**黒姫山** 二、〇五三メートル

新潟県に所在しています。新潟では火打山、焼山とともに土地の名を取って頸城三山と呼ばれています。

○**妙高山** 二、四五四メートル

五岳の中で最も高い標高を誇ります。北信五岳と言いますが長野県ではなく、

斑尾山が他の山と比べても同じような高さで見えるためです。また、見える順番は場所により変化しますが、どの場所からも最も東北側

○**斑尾山** 一、三八一メートル

北信五岳の中で標高が一番低く、他の五岳と比べても斑尾山は際立って低いかかわらず、北信五岳の一つとなっています。これは五つの山を中野市周辺から眺めた場合、一番近い斑尾山が他の山

間とを結ぶ上水内北部広域農道の信濃幹線(信濃ライン)からは、この五岳を望むことができ、通称「北信五岳道路」と呼ばれています。

寺平(長野盆地)の西北部に連なっています。

北信森林管理署が所在する長野県の北東部は、通称「北信地方」と呼ばれています。長野と新潟の県境にある五つの単独峰を総称して、北信五岳といひ、善光寺平(長野盆地)の西北部に連なっています。

濃富士とも呼ばれています。周辺の山域に分布するチシマザサは江戸時代からザルなどの竹細工の材料として

○**飯綱山** 一、九一七メートル

南山麓の飯綱高原は湿地や湖が多く、植物や野鳥の宝庫となっています。手軽に登れることから小学生の登山教室、親子ハイキングとして人気があります。山頂からの三六〇度パノラマの眺望では、

長野市方面や戸隠連峰、黒姫山など、他の北信五岳が間近に迫り、遠くに北アルプスを望むことができます。



蟻の塔渡り、剣の刃渡り

奥社からの登山道には、「蟻の塔渡り、剣の刃渡り」と呼ばれるナイフリッジがあります。

狭義の戸隠山は一ピークに過ぎませんが、広義の戸隠山は西岳から高妻山にまで屏風のように連なる広い範囲を指します。

利用されています。○**戸隠山** 一、九〇四メートル



キバナアツミノソウ



オヤマリンドウ



戸隠山と鏡池

同じ年齢を問わず楽しめるエリアとなっています。皆さんも是非お越しになってはいかがでしょうか。